新社長

紅忠スチール 柳井 直樹氏

変化する市場で新ビジネス創造

多様性重視、各々の機能高める集団へ

伊藤忠丸紅鉄鋼（MISI）グループの中核内販・受託会社、紅忠スチールの5代目社長に就任した柳井直樹氏は、旧紅忠オートスチール時代に出向経験がある。「自動車用鋼材、建材薄板用鋼材という分野の1ディビジョン（機能を持つ部門）として、取引先には質の高い情報、物流、加工サービス機能を提供していきたい。また社員の今後のキャリアアップと社員の家族の幸せのために力を注ぎたい」と抱負を語る。

就任時に掲げた経営指針として、「多様性の尊重」、「機能の確立」、「トランスフォーメーション」の3点を挙げる。「性別や年齢、総合職と一般職などの違いはあるが、多様性を重視する組織運営を目指したい。また会社には営業、事務、経営、経理や人事、ITなどさまざまな業務に従事する人々が集まり、各々に期待される機能と役割を担っている。社員が個々の機能を確立させ、意識を向上させることで、社員と会社の価値も高まる。ここ数年、サプライヤー賞をいただいた取引もあれば、もっと頑張れと叱咤激励をいただいている取引もあり、この経営方針のもとに、さらに機能を高める集団を目指したい」と意気込む。

トランスフォーメーションについては、「今、日本を取り巻く政治・経済環境やビジネス環境は大きく変化している。従来のビジネスを見直しし、この変化をチャンスと捉えて新たなビジネス体系を創造していきたい」と変容を促す。

足元の市場環境は住宅・建築需要の低迷が続いており、自動車関連の需要も緩やかな回復基調にあるが、コロナ前と比べるとまだ低い水準だ。「建築分野ではインバウンド関連の需要増や半導体関連の投資増で徐々に変化が起こり始めている。自動車もHVへの見直しの動きはみられるが、中長期的にはEVが増える潮流となるだろう」と示し、構造変化で変わりつつある国内市場に商機を見出す。

一方、社内施策では薄板建材部門と自動車部門のより進んだ融合にも注力する。「社内の活動においては、建材と自動車の垣根をできるだけ無くそうとしている。新規案件や新商材、新ビジネス領域では両部門で事業を創出する組織体制に変えていきたい」と話す。

（伊藤　健）

略歴

柳井　直樹氏（やない・なおき）91年明治大法学部卒、同年伊藤忠商事入社、99年伊藤忠インターナショナル会社（金属部門、RSDC of Michigan LLC）、01年伊藤忠丸紅鉄鋼米州統括会社（シンシナティ支店、デトロイト支店）、09年鋼材第三本部自動車第一部自動車鋼材第二課長兼紅忠オートスチール、16年米国会社シカゴ支店長、18年米国会社Division2President兼米州支配人付（ナッシュビル）、22年自動車鋼材本部自動車鋼材第一部長、23年自動車鋼材本部長代行兼自動車鋼材本部次世代モビリティ対策室長、24年4月から現職。1967年（昭42）9月14日生まれ。